学園報 皇學館 第38号

発行・編集　学校法人皇學館　企画部
TEL0596-22-6496・8600

大　学
大学院・専攻科・文学部・教育学部・
現代日本社会学部・社会福祉学部
〒516-8555 三重県伊勢市神田久志本町1704
TEL0596-22-0201㈹　FAX0596-27-1704

高等学校・中学校　三重県伊勢市楠部町138
【高校】〒516-8577　TEL0596-22-0205㈹
【中学】〒516-8588　TEL0596-23-1398㈹

●今号の注目記事

1面
記念行事を挙行

2面
安倍晋三元首相が来学
東儀秀樹氏と雅楽部が共演
神社名宝展を開催

3面
各学び舎で入学式

4・5面
各地で学外学習

6面　高校・中学
新校友会役員の紹介
新入生歓迎スポーツ大会 ほか

7面
新教職員紹介

8面
コミ４年の東真央さんが起業

●連載

7面
先輩、お元気ですか
中西里絵氏
（皇學館高校第40期・平成17年卒）

創立百三十周年・再興五十周年
記念行事を挙行

「記念式典に出席出来ましたことは、誠に嬉しく喜びに堪えません」とご挨拶を述べられる彬子女王殿下

「柏」を植樹される彬子女王殿下

四月二十九日から三十日にかけて、本学において創立百三十周年・再興五十周年を祝う記念行事が執り行われた。開学記念日にあたる三十日には彬子女王殿下の御台臨を仰ぎ、記念式典を盛大に挙行。前日の二十九日は安倍晋三元首相による講演会、雅楽師・東儀秀樹氏を迎えての演奏会などが催され、二日間で約二千人が来場した。

記念式典は開学記念日となる四月三十日、本学記念講堂において挙行された。式典には来賓の方方をはじめ神社界、教育界、学内外から約千名が参列。開始時刻の十時半になると平田美永文学部長より開式の辞が述べられ、厳かに始まった。

国歌斉唱に続き、演壇に立った清水潔学長は、賀陽宮邦憲王の令旨を奉読。式辞では「創立百三十周年、再興五十周年の記念式典が彬子女王殿下の御台臨を仰ぎ盛大に挙行できますことは、私どもにとって無上の光栄であり限りない喜び」と語り、「創立以来、本学は一貫してわが国の歴史と伝統に根ざした道義と学問の究明に努め、神道を基調とする独自の人間教育を展開し、文明の進展に寄与することをめざしてきた。混迷する現代においてその重要性は益々高まっており、今改めて建学の精神に思いを致しつつ、全学一体となって国家有為の人材育成に努めたい」と力強く述べた。

彬子女王殿下よりお言葉を賜った後、佐古一洌理事長の告辞、小串和夫館友会会長のご挨拶と続き、来賓からは平野博文文部科学大臣（常盤豊文部科学省審議官が代読）、鷹司尚武神宮大宮司、北白川道久神社本庁統理、鈴木英敬三重県知事、納谷廣美私立大学連盟副会長より祝辞をいただき、「この佳節を契機に、建学の精神に基づくさらなる教育の充実を期待する」などのお祝いの言葉が寄せられた。

彬子女王殿下お言葉

本日茲に、皇學館大学創立百三十年の佳き年、佳き日に、記念式典に出席出来ましたことは、誠に嬉しく喜びに堪えません。

西に位置する「皇學館」は、明治十五年（一八八二年）四月三十日、神宮祭主久邇宮朝彦親王の「令達」により、神宮林崎文庫内に設置され、後に官立の専門学校を経て、本年百三十年を迎えました。

また、私の母校であります学習院は、弘化四年（一八四七年）京都御所の日御門前に開講され、その二年後に孝明天皇に「勅額」を賜り、本年で百六十三年を閲しました。

東に位置する「國學院」は、同明治十五年十一月四日、有栖川宮幟仁親王の「告諭」により、皇典講究所内に設置され、後に私立の専門学校を経て、本学と同様、今年百三十周年を迎えました。

以上三校は、国内に数多有る大学校の中で、際立った特徴を持つ教育機関であり、ほかに類例を見る事の出来ない貴重な校風を要する、言わば「姉妹校」であると、同じく学習院の卒業生である父が常日頃申しておりました。

三校の各の建学の精神は、「文章、文言」の上では微妙に差異がみられるのは言う迄も無い事ですが、基本的な部分に関しては共通見解を有していると思います。即ち世界に類を見ない唯一無二の「日本」という国体の持つ伝統、風習、価値観等を真摯に見つめ直し、発展させる為に、一人一人が研鑽を積むことの重要性を第一義に掲げている点です。

我が国は、百二十五代の万世一系の「天皇」を戴き、「一君万民」と言う他国に見る事の出来ない、「国柄」を、この悠久の歴史の中で育んできました。

また、「神道」という、諸外国の持つ「宗教」という概念では解明することの出来ない、独特の「神の道」であるところの信仰を大切にしてまいりました。

伊勢の神宮を頂点とし、全国津々浦々の鎮守の森の社に至る神社の存在を、日本人は古代から現代まで途切れる事なく、日常の生活の中に極く当たり前に取り入れてきました。歴史上たびたびあった外来宗教の伝来に際しても、宗教戦争を起すことなく、その時代ごとに受け入れ、共存してこられたのは、「八百万の神々」といわれているように、「神道」が多神教であり、その思想が日本人の根底に、先祖代々流れ続けていることに他ならないでしょう。

海外で生活をしておりますと、「日本の宗教は何か」、「神道とは何か」という問いを投げかけられることがよくあります。私は長い間、その問いにうまく答えることが出来ずにおりました。そして私は、ある神職の方にお目にかかった時、同じ質問を投げかけてみました。その方は一筋の迷いも無く、「今ここに生かされていることを神様に感謝することです。」とお答えくださいました。私はこのお答えに積年の胸の痞えが降りるような気がいたしました。神の道とは感謝をすることから開けてくるものだと思います。最近は、「有難う」の言葉すら言えない大人が増えてきてしまいました。感謝の心は、人の心を豊かにし、幸せにします。日常生活の中で感謝の気持ちを忘れないこと、それが神の道へと繋がっていき、ひいては精神的に豊かな日本という国の発展へも寄与していくのではないでしょうか。

創立百三十周年という大きな節目の今、皇學館のすべての関係者の皆様はもとより、伝統ある三校が手を携え、今、「何を為すべきか」を真摯に熟考され、以って我が国の真の発展の為に努力されることを心から祈念しつつ、私よりのご挨拶といたします。

倉田山春秋

三十年前、創立百年・再興二十周年の記念式典が盛大かつ厳粛に挙行された。今回の式典に参加しながら、当時のことをいろいろ思い出したが、ここでは、まことに些細なエピソードを一つ記しておきたい▼式典の前日、最後の準備に事務局全体が殺気立っていた中でのこと。学長室に呼ばれて指示を受けていたところへ、庶務課の職員が名簿を持参した。どうやら、大事な名簿に修正を要する箇所が出てきて、学長が書き直すように命じたらしい。学長は、労をねぎらいながら、「やればできるものですね」とおっしゃった。庶務課員は、「はい」と答えて下がっていったのだが、その顔には、「たいへんだったんですよ」という思いがありありと浮かんでいた（ように思う）▼三十年前、文書はペンで手書きするしかなかった時代である。名簿の一箇所を直すことは、つまりは全部を書き直すことであった。それがたとえ数百名分であろうと。今は、パソコンがあるので、名簿の訂正は一瞬で済む。大学には、変えてはならないことと、変わらなければならないことがあるが、名簿作りの方法はたぶん後者だろう。

安倍晋三元首相が来学

「日本は大きな可能性を秘めており、努力と勇気で競争力を高めていこう」と訴える安倍氏

記念行事の初日、二十九日には、元首相で自民党衆議院議員である安倍晋三氏を講師に迎え、「日本の未来―皇學館に望むこと―」と題した記念講演会が開催された。安倍氏は本学の第二代総長である岸信介氏を祖父にもつなど本学と縁が深い。また、首相在任中は戦後レジームからの脱却をめざし、愛国心や道徳心を備えた日本人を育成しようと教育基本法の改正に取り組むなど、本学の建学の精神に通じるところがある。

講演では、森喜朗氏や小泉純一郎氏にまつわるエピソードや外交の裏話を織り交ぜ聴衆の笑いを誘いながらも、日本について語る場面では一転真剣な表情に。そして、「占領時代に作られた仕組みや歴史と決別し、真の独立を日本人の手で勝ち取るべき」と話し、「水を分かち合ってきた、日本人という農耕民族にふさわしい資本主義のあり方が求められている」と熱く語った。最後に、敗戦翌年の歌会始で詠まれた昭和天皇の御製「降り積もる深雪に耐えて色変えぬ松ぞ雄々しき人もかくあれ」を紹介し、「日本の国柄、伝統を守り伝え、日本人としての誇りを持った人材を輩出してきた貴学の果たす役割、使命は大きく、重い。今後の発展と教育研究におけるさらなる研鑽と実践に期待したい」と締めくくった。

安倍氏を一目見ようと、満席となった会場

流麗な調べで聴衆を魅了

東儀秀樹氏と雅楽部が共演

安倍氏による講演会に引き続き、記念講堂では雅楽師・東儀秀樹氏と本学雅楽部とのコラボによる記念演奏会が催された。よどみのない美しい音色が流れだすと会場は一瞬にして平安の昔にタイムスリップしたかのよう。聴衆は千年の時を超えて伝えられてきた雅な音の世界に浸っていた。

記念演奏会は東儀秀樹氏と本学雅楽部によるコラボ演奏と、東儀氏一人によるソロ演奏の二部構成で行われた。共演曲は「君が代」「越天楽幻想曲」「夕焼け小焼け」を、ソロでは「ジュピター」「大河悠久」「ボーイズ ハート」を演奏。「君が代」について東儀氏は、「雅楽の様式に則ったメロディであり、伝統文化の特徴を示す重要な作られ方をしている」と解説した。加えて、日本について語られるとき、江戸以降の〝侘び寂び〟に注目が集まることに触れ、「平安時代における〝雅〟の文化にも、もっと目を向けてほしい」と話していた。

また、演奏の合間に雅楽で使われる和楽器や音の特性について熱く語った東儀氏。たとえば、笙が紡ぎ出す音は天から射し込む光を表し、パイプオルガンのルーツと言われている。篳篥は地上の音の象徴、竜笛は天地の間を行き交う竜の鳴き声を模し、合奏することで〈宇宙〉を表現しているという。さらに、音には季節感や体の細胞に働きかける力があり、春を意味する「ソ」は肝臓に、秋を表す「ミ」は花粉症に効くといった余話も印象的で、聴衆は興味深げに耳を傾けていた。

以前にも本学雅楽部と共演したことのある東儀氏。息の合った演奏で聴衆を惹き込む。

津市からやって来たという夫婦は「初めて聴く音なのにどこか懐かしく、心が洗われるようだった」と語った。慰霊祭に参列するため姫路市からやって来たという家族はかねてより東儀氏のファンだったと言い、「感動のあまり涙が出た。本当に素晴らしい演奏だった」と感想を話していた。

三千人超が秘蔵の名宝を鑑賞

神社名宝展―参り・祈り・奉る―

オープニングセレモニーでのテープカット

記念行事の開催にあわせ、四月二十九日から五月二十六日までのおよそ一カ月間、神道博物館にて「神社名宝展―参り・祈り・奉る―」が開催された。品目は神宮をはじめとする東海・近畿などの著名な神社十三社が所蔵する名宝計一〇五点。展示は第一部を「神々と神社宝物の精華」、第二部を「神社境内図と参詣曼荼羅」と題して行われ、期間中の入場者総数は三二二六名という盛況ぶりをみせた。

「当時の人々の崇敬心や祭典の様子、時代背景、技術の高さなど宝物からは本当にいろいろなことが読み取れる」と語るのは、同博物館の学芸員を務める岡田芳幸教授だ。たとえば、三重・多度大社所蔵の多度鏡四面は文様が鳳凰など空想上の生き物から小鳥やススキといった身近な動植物へと変遷しており、大陸的な美的感覚が次第に和様化していった様子がわかるという。京都・八坂神社所蔵の祇園社絵図には現存していない多宝大塔や坊舎などが描かれていて、中世における祇園社の姿を伝えるとともに、詳細に描かれているため建築史的にも重要なのだそうだ。

来場者は一様にガラスに顔をくっつけるようにして熱心に覗き込んでおり、岐阜から訪れた男性は「山城に興味があって古地図を見るが、神社とは配置の仕方が違い面白かった」と話した。滋賀県からやって来たという男性は「曼荼羅を見ると当時の神仏習合のあり方がよく表れており、興味深かった」と話した。

来場者は特別展だけでなく、常設展示も熱心に見ていた

万感の思いを胸に

慰霊祭・記念展示 ほか

故人を悼み玉串を拝礼する遺族代表の方々

記念行事期間中は祭典のほか、慰霊祭や創立以来の歴史をたどる記念展示、各施設の開放・見学、祝賀会など多彩な催しが行われた。

四月二十九日、十一時から厳粛に執り行われた物故者慰霊祭は皇學館と縁を結び、創立百三十年、再興五十年の学びの道を支えてこられた三〇八二柱の御霊に対し斎行され、先人の偉業に改めて敬意と感謝の念が表された。

記念展示は「神宮皇學館・神宮皇學館大學・皇學館大学の軌跡―明治十五年～平成二十四年―」と題し、四月二十九日から三十日までの二日間にわたり開催された。展示物は皇學館に関する文書や記録、絵図、写真など約二百点。来館者は神宮皇學館時代の卒業証書や館町校舎開館式の写真、學館俳句会の同人誌、氏名が寄せ書きされた出征国旗など初めて目にする貴重な資料にじっくり見入っていた。

二日間にわたる記念行事の最後を飾る祝賀会は、三十日の十二時より総合体育館メインアリーナで開催された。会場は終始和やかな雰囲気で、寿ぎの余韻が漂うなか乾杯したり談笑する光景が見られた。宴もたけなわとなった午後一時半頃、神社本庁長老で二見興玉神社宮司の片岡昭雄様の万歳三唱にてお開きとなった。

上／29日に執り行われた記念祭典　中／記念館で開かれた記念展示の様子　下／総合体育館メインアリーナで催された記念祝賀会。鈴木健一伊勢市長をはじめ、各界の来賓の方々から祝辞をいただいた。

志高く、七四三名が入学

皇學館大学入学式

新入生が見守るなか、引き締まった表情で入学宣誓をする5人

倉田山の桜が艶やかに咲き始めた四月四日、平成二十四年度入学式が記念講堂で行われた。学部、大学院、専攻科など合わせて七四三名の新入生は真新しいスーツに身を包み、晴れやかな表情で式に臨んだ。

「皇學」を学び日本を担う原動力に

十時から始まった式典は開会の辞、国歌斉唱の後、本学建学の精神である「賀陽宮邦憲王令旨」を清水潔学長が厳かに奉読。続く式辞において清水学長は、新入生たちの入学を許可したのち、大学生活を始めるにあたって二つの心得を説いた。

一つは、大学が「学問の府」である自覚を深めること。単に知識を詰め込むのではなく、人間とはなんぞや、われ如何に生きるべきか、という根源的な問いを常に抱きながら、自ら進んで問題や課題を見出し、探求する研究的な姿勢が学生には求められ、そうして培われた力は生涯にわたり必ず有効に働くと熱く語った。

もう一つは、本学の個性や学風への理解を深めること。「皇學」の二字に象徴されるように、二千年余におよぶ歴史を支え、独自の文化を生み育ててきた日本人の心を探り、明らかにするのが本学の学問の核心であると力強く述べた。

続いて佐古一洌理事長が告辞で、「学んだ知識の量と志の高さは比例します。我が国の真髄に触れて大いに学び、友と語らい心を練り、体を鍛えて、悔いのない青春の日々を」と激励した。また、鷹司尚武神宮大宮司からも「皇學館大学において古来から伝わる日本の『心』を学ぶことは、いまだ見ぬ社会を切り開き将来の日本を担っていくうえで大きな原動力になるものと確信しています」と熱い期待を込めた祝辞が寄せられた。

五名が入学の宣誓

これらに対し新入生五名が壇上に上がり、「本学建学の精神に深く思いを致し、固く学則を守り、将来国家有用の人材となるべく努力することを誓います」と宣言し、入学式を終えた。

神道学科に入学した橋本昌幸君は「日本の神道の考え方をよく学び、現代社会のモラルが崩れていることに対して神道の考え方がどのように役立つかを探っていきたい」と学生生活の抱負を語った。また、教育学科に入学した東和樹君は「学生生活を充実させ、コミュニケーションが取りやすい先生になりたい」と話していた。

式終了後、校歌および参拝作法の指導が行われた。午後からは外宮・内宮に参拝して、晴れやかな日の記念となった。

入学宣誓をした橋本君(右)と東君

お仕事拝見

本学と連携協定を結んでいる伊勢市。このコーナーでは〝地元愛〟を町づくりに活かすスペシャリストである伊勢市役所の方々にこれまでの取組みや伊勢の魅力について語っていただきます。

共同研究で市の課題解決につなげたい

情報戦略局 情報調査室　江原博喜室長

入学進学されてから三カ月が過ぎましたが、新しい生活には慣れましたか。

さて、私が働く「情報調査室」ですが、「情報調査って何やろ」と思われたのではないでしょうか。私たちは、伊勢市の課題などについて情報収集・発信を行うことで、市民の皆さんと情報共有を図り透明でわかりやすい行政運営を進めるための仕事をしています。

情報調査室は、情報調査係、行革係、統計係で構成され、市役所をいろいろな視点で見つめながら仕事を進めるようにしています。平成二十三年度は、予算・決算情報の発信、行政サービスのコスト集の作成、経済センサス活動調査や、市の事業が効率的・効果的に進められているか点検する「事業総点検」などに取り組みました。

特に今年度は、現代日本社会学部の先生方や学生の方々との共同研究を計画しています。統計データの分析を行い、私たちが暮らす伊勢市の課題解決につなげていければと考えています。この機会を通じて学生の皆さんにも伊勢市の魅力や問題点をわかっていただく機会になれば幸いです。

情報をわかりやすく、市民に公開

内部管理事務で地味な職場ですが、私たちは、仕事を通じ市民の皆さんと市役所が風通しのよい関係をつくり、効率的な行政運営を進めることで市民満足度が向上するための手助けになることが私たちの目標です。

長いようで短い四年間です。有意義な学生生活を送ってください。

緊張と期待を胸に

皇學館高校入学式

誇らしげな表情の新入生を前に、歓迎と期待の言葉を述べる中村学校長

四月十日、第五十回入学式が行われ、三七六名の一年生が誕生した。ピーンと張りつめた表情で登校してきた新入生は記念講堂入口で受付を済ますと自分の指定された席に歩んでいった。

式典は国歌斉唱、令旨奉読、入学許可と進み、続く学校長式辞で中村貴史学校長は夏目漱石の『三四郎』に出てくる会話を紹介。人間の可能性の大きさについて語りながら、生徒が皇學館高校で送るこれからの三年間に期待している、と締めくくった。最後に、新入生代表の八木汐里さんが入学宣誓を元気な声で読み上げ、式は終了した。

三年後を見据えて

一年八組　八木汐里

式後、各クラスで行われる初めての学級指導では緊張しながらも少し余裕が生まれたのか笑い声も聞かれ、生徒が送るであろう今後の楽しい学校生活を予感させるものとなった。

つい先日、入学させていただいたばかりの私たちは真新しい制服に身を包み、慣れない学生生活を送っています。私は、本年度の入学式で宣誓を、その翌日には先輩方との対面式で新入生代表の挨拶をさせていただきました。今年からは、この三七六名の仲間と、先輩方と共に過ごしていくんだ、という新たなスタートを切ることができたと思います。しかし、まだまだ不安な気持ちでいっぱいです。勉強はついていけるのか、クラブ活動との両立をうまくできるのか、クラスメイトと明るく楽しく過ごせるのか……。

これらの不安や悩みを解消し、充実した日々を送ることができるようにしたいです。そのために、何のためにここへ来たのかを常に考え、いまやるべきことは何なのかを判断し、行動に移せる人間になりたいです。そして三年後、卒業式を迎える時には、皇學館高校の生徒で良かった、と思えるようにしたいです。

中学校を卒業したばかりで何も理解できていない私たちですが、ご指導よろしくお願い致します。

五十三名が笑顔で入学

皇學館中学入学式

上／それぞれのクラスで先生の説明を聞く新入生
下／先輩に名札を付けてもらう新入生

四月七日に第三十四期生の入学式が行われた。緊張した面持ちで登校してきた新入生はセミナーホール前で校友会役員の先輩から名札をつけてもらい、「ご入学おめでとうございます」と優しく声をかけてもらうと少し笑顔を見せた。

式典では、国歌斉唱、令旨奉読に続き、担任から一人ひとり名前を呼ばれると、しっかりと返事し起立した。五十三名の入学が許可された後、学校長式辞、理事長告辞、保護者副会長祝辞と続いた。在校生代表として総務副委員長の三谷陽奈さん(三B)が歓迎の言葉を述べ、入学宣誓を新入生代表として久米橋奈々さん(一A)が立派に読み上げた。

式後、初めての学級指導に向かった。緊張も少しほぐれた様子で担任の先生の問いかけに元気よく返事をし、真剣に話を聞いていた。

大学参拝見学

1年　目的地　斎宮歴史博物館、神麻続機殿神社、神宮徴古館、神宮農業館、倭姫宮　5月9日

日本の歴史や文化に触れる

コミュニケーション学科１年　山際（やまぎわ）　さくら

バスに乗り込み、まず斎宮歴史博物館に行った。館内には平安の人たちの生活の様子を模型で表したものが展示されており、当時のファッションやマナーなども学べるようになっていた。男性はあぐら、女性は立てひざで座ることが当時は行儀が良かったという事を知り、今の文化とは大きく違うと思った。一通り見て回ったあと、「斎王群行」という映像をみた。選ばれた当時八歳の斎王が付き添いの者と京都から伊勢へと行く話だった。５泊６日で伊勢に着くのだが、重い荷物を背負って長い道のりをひたすら歩いていく大変さは、便利な生活しか知らない私には見当がつかないことだ。

映像を見終わり、またバスに乗り込み神麻続機殿（かんおみはたどの）神社へ参拝し、すぐに大学へ帰って昼食をとった。そして神宮徴古館へ向かった。

何度か建物を見たことはあったが、改めて見ると重厚な格調のある雰囲気だった。中も綺麗だった。日本の歴史や文化の移り変わりを展示で見られたが、急いで次の神宮農業館へ移動したためあまりじっくりは見ていられなかった。移動する頃にはぽつぽつ降っていた雨も止んで陽が差していた。農業館は徴古館とは違い和洋折衷の建物だった。稲作に関係する物品が沢山展示されていた。農業だけではなく、漁業や林業に関するものもあった。展示物で一番驚いたというか感動したのが、蝋で精巧に作られた花だった。本物だと思ってしまうくらいに綺麗だった。

最後に倭姫宮へ参拝。木々に囲まれていて、近くに車が沢山通る道路があるとは思えない程に清々しい雰囲気だった。

倭姫宮

この日に行ったところは、見かけることは何度もあっても立ち入ることはなかった場所ばかりだった。今回そこに触れることが出来てとても新鮮な感覚だったし、日本の歴史や文化に触れることができたように思う。

2年　目的地　瀧原宮、丹生神社　5月9日

調べることが大切

国史学科２年　森（もり）　望美（のぞみ）

平成24年５月９日、あいにくの雨の中参拝見学が行われた。今回の行き先は瀧原宮と丹生神社で、『倭姫命世記（やまとひめのみことせいき）』や『延喜式（えんぎしき）』にその名が見られる、古くからのお宮である。

上／瀧原宮　下／丹生神社

瀧原宮は大紀町にある皇大神宮（内宮）の別宮で元宮と言われている。雨に濡れた参道は皇大神宮に雰囲気が似ていたがまたどこか違う神秘的な雰囲気を醸し出していた。

丹生神社は多気郡に鎮座し、御祭神は丹生都比売である。そのすぐ傍には神宮寺があり、神仏習合の形をとる。

この参拝見学では、気になる事があったら迷わず調べてみることの大切さを学んだ。なぜなら、瀧原宮へ向かうバスの中から見えた鎮守の森。気になって調べてみたら朽羅神社といい、皇大神宮摂社であることがわかった。また、神宮寺に関してもそうだ。丹生神社を参拝したら直ぐにバスへ戻ってしまった学生も多い。けれど、少し足をのばせば神宮寺の石段横の回廊を登ってみるなど、普段では体験できないような事が出来たのだ。

普段ではあまり来れないような場所に行く参拝見学。実際にその場に行ってみるというこの貴重な機会を利用して多くのことを学んでいけたらと思う。

3年　目的地　伊雑宮、御料鰒調製所、金剛證寺　5月9日

予習をして参加しよう

現代日本社会学科３年　中村（なかむら）　圭介（けいすけ）

皇學館ならではの恒例行事である参拝見学は、今年は、朝からあいにくの土砂降りとなり、傘をさしてのお参りとなった。

３年生としての今回は、鳥羽方面の海にゆかりのある場所を多く訪ねた。初めに向かったのは伊雑宮（いざわのみや）。的矢湾（まとやわん）の湾奥に御鎮座する神社だ。皇大神宮へ奉る御供物（おそなえもの）を採る所をお定めになるため、志摩国に創建されたと伝えられている。

その御供物の中で最も重要視される鰒（あわび）を採取するのが、次に向かった国崎町鎧崎の御料鰒調製所（ごりょうあわびちょうせいしょ）である。薄く切った鰒を実際に少し頂いた。供えられているものと同じものを食べていると思うと何とも不思議な心持ちになった。

上／御料鰒調製所
下／金剛證寺

最後に朝熊山山頂の金剛證寺へ着いた頃には雨も止んで晴れわたり、綺麗な庭園に心癒されながらしっかりと参詣して、帰路についた。

参拝見学は教室での学びだけでは得られない点を体感、体得し、皇學館大学のアイデンティティを確認する素晴らしい行事だと思う。来年はもっと予習をしてから伺おうと心に決めた。

4年　目的地　A▶結城神社、三重県護国神社、松浦武四郎記念館　5月9日

松浦武四郎の人生から学ぶ

国文学科４年　渡邉（わたなべ）　真子（まこ）

学生生活最後の参拝見学として結城神社、三重県護国神社、松浦武四郎記念館を訪れた。あいにくの天気でじっくりと見学することはできなかったが、その中で特に印象深かったのは、松浦武四郎記念館だ。

幕末から明治維新にかけて活躍した松浦武四郎は「北海道」の名付け親であることで知られている。その他にも旅行家、探検家、作家、出版者、学者など多芸多才ぶりを発揮した人物でもある。記念館の見学で最も驚いたのは、展示されている書物の多さだ。松浦武四郎は全国各地を旅する際、スケッチを添えてその様子をメモしつつ歩いたそうだ。また蝦夷地での詳細な調査を行った際の調査記録は151冊にのぼっている。細かくメモや記録を取ることが後の研究や調査に役立ったのだと思った。北海道の名称、国名、郡名をアイヌ語のカイ（この土地で生まれた者）を用い、「北のアイヌ民族が暮らす大地」というおもいを込めた「北加伊道」から「北海道」の名が誕生したという。松浦武四郎のアイヌの人々への思いや愛情が感じられた。

三重県護国神社

松浦武四郎記念館

松浦武四郎の人生から、さまざまな価値観を受け入れる広い心、偏見を持たない眼、常に先を切り拓く大切さを感じた。そして松浦武四郎の存在や功績について、もっとたくさんの人に知ってもらいたいと思った。四年間の参拝見学で、さまざまな場所を訪れることができた。中には初めて訪れる場所もあり、見聞を広め、よい経験ができたと思う。今後も、参拝見学で学んだことを活かしていきたい。

4年　目的地　B▶神服織機殿神社、松坂城跡、松浦武四郎記念館　5月9日

神道の精神、地域の歴史を学べた

社会福祉学科４年　榎本（えのもと）　恵実（めぐみ）

最初の訪問先・神服織機殿（かんはとりはたどの）神社でのお話しで、わたしはご遷宮について質問をした。御神殿は同じ場所に建て替え、その間八尋殿（やひろでん）の右側に仮の御社を建てるそうだ。また、八尋殿は御神殿ではないので、ご遷宮よりも短い10年周期で屋根の萱を葺き替えるとのことだった。

松坂城跡ではボランティアガイドの方の説明で、特に印象に残ったことがある。ここの石垣は松阪近辺のお墓や神社などから集めたので、雨に塗れると文字が浮かび上がってくるそうだ。

松浦武四郎記念館では、北海道の地名について興味深く知ることができた。アイヌの人々と信頼関係を築いてきたからこそ、この大きな土地の隅々まで調べ、アイヌの言葉で地名をつけられたのだ。

神服織機殿神社

以上、大学生活最後の参拝見学だった。大学の建学の精神である神道の精神に触れ、伊勢をめぐる地域の歴史を学ぶことができたことを心からうれしく思う。

専攻科　目的地　1日目▶石清水八幡宮、大原野神社、松尾大社　5月12日　2日目▶八坂神社、伏見稲荷大社、明治天皇陵　5月13日

これから目指す姿がより明確に

神道学専攻科　半田（はんだ）　敦（あつし）

専攻科の参拝見学は京都府にて２日間にわたり行われ、１日目は石清水八幡宮、大原野神社、松尾大社を、２日目は八坂神社、伏見稲荷大社、明治天皇陵を訪れた。各神社を巡拝する中で、それぞれの神社の御由緒や御祭神についてとても丁寧なご説明を頂き、普段は決して見ることができない部分にまで案内して頂いたことは大変ありがたく貴重な経験であった。

伏見稲荷大社

八坂神社

また、いくつかの神社では実際に専攻科を卒業された先輩方からのお話を聞けたので、我々専攻科生のこれから目指す姿がより明確になった。

この参拝見学によって、神道についての見聞を広め、専攻科一同の絆も深めることができ、とても有意義な２日間であった。

外で学び、感じ、活かす

学外学習感想文

頂上に着きました!

４月下旬から５月上旬にかけて、中学・高校・大学で学外学習が行われた。教室や研究室を飛び出し、実際にその場所を訪れることで得られるものは大きい。生徒や学生たちは関係者から直接話を聞いたり雰囲気を肌で感じとったり、または集団で行動することで友情を深めあったりと、それぞれに密度の濃い時間を過ごした。

中学 フィールドワーク

目的地
朝熊山
5月11日

〈助け合い〉を学ぶ

１年Ｂ組　武藤里歩

私はフィールドワークに参加して助け合いを学んだ。例えば後ろの方に人がいたら、前にいた人が引っぱったりして、お互い助け合いながらの充実した一日になった。

朝熊山は足場がとても悪く、私も岩についていたコケですべった。だが、急な岩の所には手すりが付いていたのですごく便利だった。それから所々にイスが３台ぐらいありいろいろな設備が整っていたのでびっくりした。

朝熊山を登るのはすごく大変だったが、頂上に着いた時の達成感はすごかった。頂上から見た景色は心をいやしてくれた。

下りはすごく危険だったが、朝熊山の風を浴びながら降りたので気持ちよかった。

来年もフィールドワークがあるので人と人の関わりを深めていきたい。

風が心地よかった

２年Ｂ組　東　芙海

今回のフィールドワークを終えて思ったのは風がとても心地よかったことだ。山道を歩いているときも、もちろん山頂に着いたときも、景色以上に印象に残っている。

私は山登りが好きだ。だからこんな行事はとても楽しい。険しい山道を登っていき途中苦しくなっても、その分、頂上に着いたときの嬉しさが増える。それが私が登山が好きな理由だ。

朝熊登山鉄道の説明の前でチーズ!

今回は景色に加え風が吹いていたことで気分よく登ることができた。また、同級生に遅れないようにもっと早く進めるようにという思いもある。

それらのおかげで頂上で食べたお弁当はいつもより格別においしかった。また、共通の趣味を持っている子を見つけることができた。本当に楽しい登山だった。

「風吹いて　心さわやか　山登り」

愛知ってこんなに近いのか

３年Ａ組　齋藤暢

山頂までいって僕たちはビックリした。想像以上に景色がきれいで、また、愛知県まで見えて、「愛知ってこんなに近いのか」と思った。いつもなにげなく低いと思っていた山の頂上からこんなにきれいな景色が見られて色々なことを気付かされて、そんな山の頂上で食べた昼食やお菓子はいつもよりおいしく感じられた。また、途中の登山道では友達と歌ってふざけあいながら普段より楽しく感じられた。道端に生えている木や草についてもたくさん発見したり学んだりすることがあり、とても大変だったが登ってよかったと思った。

頂上で食べる昼食は格別

高校 遠足

1年

目的地
琵琶湖博物館
4月24日

クラスの仲が深まった

１年７組　山本健大

高校生になって初めての遠足で、私たちは琵琶湖博物館へ行った。まだあまり慣れないクラスのみんなとバスに乗り、最初はなかなかしゃべれなかった。しかし、時間が経つにつれて会話も増え、みんなとても仲良くなった。また、挨拶や集合時間をしっかり守れたことも良かったと思う。

博物館には、ナマズ、ザリガニなど、琵琶湖の生物がたくさんいた。中でも一番驚いたのは体長２メートルものサメだ。水族館のように様々な魚たちが自由に泳ぐ姿は美しかった。

また、大きな琵琶湖を眺めながら周辺を歩き、自然の素晴らしさを感じることができた。そして、このような日本の自然を維持していきたいと思った。

帰りのバスは疲れて眠っている人もいたが、私は友達と遠足の感想などを話しながら過ごし、伊勢に着くまであっという間だった。この遠足でクラスの仲も深まり、心に残る遠足となった。

2年

目的地
長島スパーランド
4月24日

新しい友達ができた

２年８組　三橋紀人

高校２年生になってから約２週間、新しいクラスメイトと初めての遠足に行った。１年生からの顔なじみもいればまったく接点がなかった人もいて、少し不安もあったが、いざ行ってみると不安だったことすら忘れて楽しむことができた。大体の人は遊園地で遊び尽くすか、ジャズドリームで買い物を楽しんだ。僕たちのグループは少し遊園地で遊んだ後に買い物に行った。ジャズドリームはすごく広くて、いいなと思った服や小物を見つけては店内に入り、値札を見て皆で愕然としたり、たくさん人が並んでいる店でアイスを食べて遊んだりした。他にも、書ききれないくらいたくさんの楽しいことがあり、新しく友達もできて、昔からの友達とはもっと仲良くなれた一日だった。

これから、修学旅行もある。今からもう楽しみで仕方がないくらいだが、気を抜きすぎず、勉強もしっかりしていこうと思う。

3年

目的地
鈴鹿サーキット
4月24日

重要なのは誰と行くか

３年６組　神森麻衣

先日、高校生活最後の遠足に行った。担任の先生から行き先が鈴鹿サーキットだと聞いたとき、実は少しがっかりした。理由は２つ。どうしても乗りたいと思う乗り物がなかったことと、買い物のできる場所が少ないことだ。行く前は、最後の遠足なのに楽しめなかったらどうしようと不安だった。しかし、私の予想ははずれ、３回目の遠足は今までで一番と言っていいほど、楽しいものとなった。そして、重要なのはどこへ行くかではなく、誰と行くかなのだと思った。でんでんむしの言葉がいちいち面白かったのも、ロッキーコースターに後ろ向きで乗れたのも、半分ずつ分けて食べたロコモコがおいしかったのも、お土産選びが楽しかったのも、フライングシップで鈴鹿の風を感じることができたのも、きっとみんなと行ったから経験できたことなのだと思う。高校生活という短い期間の中でできた思い出や繋がりをこれからも大切にしていきたい。

新校友会役員の紹介

新入生の皆さん、「校友会」をご存知ですか？　校友会とは中学校でいう生徒会のようなところ。メンバーは会長である校長先生を筆頭に、全ての教職員と全生徒、それに総務委員長一人、副総務委員長二人から成り立っています。夏休み前に立会演説会と選挙を行い、三人の役員を選出。任期は二学期から次の選挙までの一年間です。

校友会の仕事内容は、皇學館高校を良くすることです。体育祭や皇高祭では主として企画と進行役を務めます。他にも、あまり皆さんに知られていないことも行っています。例えば、全国大会出場が決まった人を応援するための懸垂幕を作成し、掲げます。花壇に花を植えたり校舎内にポスターを掲示したり、さらに、このような紹介文や行事の感想文を書いたりもします。よりよい皇學館高校にするために、日々精進していきたいと思っていますので、校友会をよろしくお願い致します。

全力で挑み力を合わせよう

総務委員長　矢野翔大

僕はこの皇學館高校を皆が気持ちよく楽しいと思えるような学校にし、一年を終えた時、満足できたと思えるようにしたいです。そのためにも、クラスマッチといった様々な行事に、全力で挑み、力を合わせればどんなことでも乗り越えられることを学んで欲しいと願っています。

笑顔で過ごせる高校に

副総務委員長　江川真林

私は皆が毎日笑顔で過ごせるような皇學館高校にしたいです。辛いことがあっても、悲しいことがあっても仲間と励まし合い、もちろん楽しいときは仲間と分かち合う。同じ時間を共に過ごし、一日一日を大切に生きていきたいと思っています。

学校の発展に貢献したい

副総務委員長　南端拳

私は微力ながら校友会副総務委員長として、校友会主催の学校行事の運営などに携わっています。今年は三年生になり、伝統ある皇學館高校校友会として活動できる最後の年です。今までの副総務委員長としての経験を糧に、校友会活動を通じて、更に皇學館高校の発展に貢献していきたいと願っています。

「仲間と一緒なら頑張れる」

新入生へのメッセージ～対面式を終えて

この春、三七六名の新一年生が入学してきました。これから始まる皇學館高校の生活の中で、一年生の皆さんには楽しいことや辛いことなど、様々な事が起こるでしょう。そうした時、同じクラスやクラブ活動で得た〝仲間〟の存在が欠かせないようになります。楽しい時には共に笑い、辛いときには支えあえる――そうした仲間との出会いを大切にして、勉強やクラブに励み、自身の目標を実現できるように突き進んでください。私たち校友会も皇學館高校をよりよくし、学校の中が明るく楽しくなるように頑張ります。

三年五組　矢野翔大

対面式で挨拶をする矢野総務委員長

皇學館高等学校創立五十周年・皇學館中学校創立三十五周年記念事業　寄付者芳名

同周年記念事業は募財活動の中心を「生徒の教育活動支援」に置いており、四月三十日現在の募金状況は次の通りです。ご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。今後ともご賛同いただけますよう、よろしくお願い致します。

一般（旧教職員・篤志家等）

三重県　二万円　熊本　幸司様
三重県　二万円　福井　春生様

同窓会会員

三重県　五千円　奥村　正洋様

皇學館高等学校創立五十周年・皇學館中学校創立三十五周年記念事業寄付金進捗状況　平成24年４月30日現在

区　分	申込件数	申込金額(円)	納入金額(円)
宗教界	3	450,000	450,000
企業	42	4,240,000	4,190,000
一般（旧教職員・篤志家等）	18	575,000	575,000
同窓会会員	175	7,245,000	7,245,000
後援会賛助会員	67	1,140,000	1,140,000
本法人関係	125	3,685,000	3,635,000
合　計	430	17,335,000	17,235,000

皇高NEWS

学校生活をより充実したものに

新入生オリエンテーション

四月九日から十二日の四日間にわたり、新入生対象のオリエンテーションが行われた。

初日の対面式では二、三年生の温かい拍手の中、一年生が入場してきた。最初は緊張した様子だったが、校友会本部役員の「この先生だ～れだ？」クイズや上級生の明るい様子に少しずつ笑顔が見え始めた。

二日目は学校・学習・生活について教務や訓育の先生方からお話があり、みんなメモを取るなど真剣に話を聞いていた。

神宮参拝の心得と作法について話を聞く新入生

三日目は雨のため神宮参拝が延期になり、初めての国数英の授業だった。元気良く発言したり手を挙げたりする姿にこれからのみんなの成長がとても頼もしく感じられた。

四日目は神宮参拝の心得と作法について一年B組担任の岩﨑先生から話を聞き、神宮参拝に行った。初めての参拝に緊張した様子だったが、参拝が終わったあとみんな清々しい表情をしていた。また、部活紹介もあり自分のクラブの良さを先輩たちが一生懸命アピールし、一年生も楽しく参加していた。

ぜひ、オリエンテーションで学んだことを活かし、これからの学校生活をより充実したものにしてもらいたい。

オリエンテーションを終えて

考える力を身につけたい

一年A組　久米橋奈々

皇學館に入学できて、本当に良かったと思います。なぜかというと毎日がすごく楽しいからです。最初は不安がたくさんありました。今もそうです。でも、分からないことは先生方や先輩方が優しく指導してくださり、学校に早く慣れることができるようにしてくれました。そして、何よりも授業が楽しいです。分からない所はないかと尋ねながら授業を進めてもらえるので、苦手ができても立ち止まれる時間があるのです。その点がとてもうれしいです。

先輩をめざして

一年B組　庄山美有

私は皇學館中学校に入学して本当に良かったと思います。

最初は友達ができなくて小学校に戻りたいと思ったこともあったけれど、クラスの子が話しかけてくれたり、あいさつをしてくれるうちに不安がなくなっていきました。自分からあいさつをしたりするのは苦手だったけれど、できるようになりました。

先輩方はおもしろくて明るいので、いいなと思いました。私も先輩のような優しい人になりたいと思います。

真剣にメモをとる新入生

皇中NEWS

一丸となって盛り上げる

新入生歓迎スポーツ大会

四月二十四日に第二体育館で新入生歓迎スポーツ大会が行われた。男女別にA組B組とも三チームの縦割りで結成され、新入生が上級生と力を合わせてドッヂボールをした。

最初はなかなか前に出なかった新入生がボールを渡してくれたり、優しく声をかけてくれる上級生と接しているうちに自然に前に出てきて活躍していた。校友会本部役員が漫才をしたり、チームで円陣を組んだり、応援では新入生を交えての声援を送ったりと全校生徒が一丸となってイベントを盛り上げていた。結果は男子優勝ABチーム、準優勝BAチーム、女子優勝BBチーム、準優勝BAチームとなった。

上／盛り上がる試合
下／同じチームの上級生と仲良くなった新入生

平成二十四年度 新任教職員紹介

平成二十四年四月から新しく本学園の教職員となった十四名のプロフィールと学生の皆さんへのメッセージを紹介します。❶出身地◆経歴等 ❷趣味・特技等 ❸座右の銘 ❹一言メッセージ

皇學館大学教職員

教育学部准教授
井上 兼一（いのうえ けんいち）

❶宮崎県◆龍谷大学大学院文学研究科教育学専攻博士課程満期退学
❷読書、散歩
❸〝後悔しないために、挑戦する〟がモットーです。失敗が多いので、いつも反省ばかりです。
❹みなさんと一緒に大学生活を楽しみたいと思います。

文学部助教
佐藤 武尊（さとう たける）

❶神奈川県◆筑波大学大学院人間総合科学研究科博士前期課程修了
❷釣り、ギター
❸不撓不屈
❹「武道」としての「柔道」を一緒に楽しく安全に学びましょう。

総務部書記補
森谷 香里（もりたに かおり）

❶皇學館大学文学部国文学科
❷読書、まちの散策（おいしいお店探し）
❸過ちて改めざる、是を過ちと謂う
❹総務担当と情報担当の二足のわらじですが、やる気も二倍で頑張ります。

神職養成部事務嘱託
石井 世津子（いしい せつこ）

❶宮城県仙台市◆本学神道学専攻科修了
❷読書、映画鑑賞、着付
❸一期一会、行く河の流れは絶えずして、しかも、もとの水にあらず
❹縁豊かな倉田山でたくさんのご縁に恵まれ、学びと気づきの連続です。初心を大切にしながら頑張りますので、どうぞよろしくお願い致します。

附属図書館事務部事務室
事務嘱託
河村 有也香（かわむら あやか）

❶皇學館大学文学研究科博士前期課程国文学専攻修了
❷読書、ピアノ演奏
❸初志貫徹
❹皇學館大学で学ばせていただいた図書館学の知識を生かし、日々邁進していきたいと思います。

総務部事務嘱託
清水 真佐子（しみず まさこ）

❶三重県多気郡
❷裏の畑でも〝旅〟にできること
❸花無心にして蝶を招き蝶無心にして花を尋ぬ
❹歩いていて気づく事は多い…仕事の時もその心持ちを忘れずにいたい。

附属図書館事務部事務室
事務嘱託
松本 恵美（まつもと えみ）

❶三重県鈴鹿市
❷映画鑑賞、読書
❸笑う門には福来たる
❹新任職員として、自己研鑽を積み頑張りたいと思います。

総務部事務嘱託
山﨑 直子（やまざき なおこ）

❶三重県鈴鹿市
❷旅行
❸吾唯足知
❹皆様のお役に立てるよう、又、足を引っぱらないよう努めていきたいです。

皇學館高校教職員

高等学校常勤講師兼学監
上村 桂一（うえむら けいいち）

❶元三重県立伊勢高等学校長
❷アマチュア無線
❸寧静致遠
❹よろしくお願いいたします。

高等学校常勤講師
岩城 壽美和（いわき すみかず）

❶元三重県立伊勢高等学校教諭
❷特にありません
❸最善を尽くす

高等学校常勤講師
上野 哲八（うえの てつや）

❶三重県紀北町◆元三重県立相可高等学校校長
❷ゴルフ、紀行文を読むこと
❸なし
❹初心に帰って頑張りたいと思います。よろしくお願いします。

高等学校常勤講師
太田 有香（おおた ゆか）

❶愛知県岡崎市◆三重大学生物資源学部共生環境学科
❷散策（喫茶店めぐりなど）、音楽を聴くこと、歌うこと
❸七転八起
❹気軽に話しかけてもらえたら、嬉しいです。これからよろしくお願いいたします。

高等学校常勤講師
杉田 貴大（すぎた たかひろ）

❶三重県津市◆東海大学
❷マウスの解剖
❸明日死ぬつもりで生きなさい。永遠に生きるつもりで勉強しなさい。
❹母校で教えられて本当に幸せです。よろしくお願いします。

高等学校常勤講師
東 悦子（ひがし えつこ）

❶三重県松阪市
❷お菓子作り
❸No pain, no gain
❹一生懸命がんばりますので、よろしくお願い致します。

創立百三十周年・再興五十周年記念事業 寄付者芳名

周年記念事業につきましては、本紙で詳報の通りお蔭様をもちまして、盛会に終えることができました。ご協力を賜りました皆様には感謝申し上げます。なお、本募金の依頼は昨年度末をもち終了いたしましたが、お申込み頂きました寄付金につきましては継続させて頂きます。

宗教界（神社界）

滋賀県
百十万円［三十万円増額］
日吉大社様

館友

福島県
十万円　丹治　政文様

三重県
十万円　巽　兒子様

滋賀県
二十万円［十万円増額］
野村　郁雄様

篤志・その他

三重県
三十万円［二十万円増額］
森下　千瑞様

學の会（保護者の会）

国文学科
五万円　渡邉　朝則様

国史学科
三万円　田原　雅樹様

企業

東京都
五十万円［二十万円増額］
長永スポーツ工業㈱様

二十万円　野村ビル　マネジメント㈱様

三重県
十万円　㈲伊勢文化舎様

十万円［五万円増額］
シラセ㈱様

個人情報保護に関する法律の施行に伴い、ご芳名・金額等の掲載をご希望されない方々につきましては、別記とさせていただきました。■館友／2名 ■學の会／2名 ■篤志・その他／1名 ■宗教界／1名 ■企業／1名 ■本法人関係／1名

創立百三十周年・再興五十周年記念事業 寄付金進捗状況

平成24年4月30日現在

区　分	申込件数	申込金額(円)	納入金額(円)
宗教界	634	778,247,000	772,557,000
館友	734	81,934,000	79,729,000
篤志家	55	39,770,000	39,850,000
學の会	1,892	101,241,000	101,241,000
企業	108	63,370,000	62,080,000
本法人関係	260	60,342,000	60,102,000
合計	**3,683**	**1,124,904,000**	**1,115,559,000**

先輩、お元気ですか　OB・OG訪問

中西 里絵 氏

演歌歌手

皇學館高校第四十期（平成十七年三月）卒◆高校卒業後、東京の短大へ進学。作曲家・櫻田誠一氏への弟子入りを経て、平成二十四年四月四日に「日本クラウン」から演歌歌手・中西りえとしてデビュー。

今年四月、演歌歌手として念願のデビューを果たすことができました。歌手をめざすようになったのは、家族の影響が大きいと思います。日曜の昼は当たり前のようにNHKのど自慢を見ていましたし、正月やお盆になると父や母の実家でカラオケ三昧。中学や高校、短大へ進学してからは教室へ通って演歌や発声のトレーニングをしていました。縁あって一年前に作曲家の櫻田誠一先生に弟子入りすることができ、現在はデビュー曲の「北海男節」を引っ提げて全国をまわる毎日。歌詞の「へなんだ、なんだこらよ」という言葉にはへなんの、負けるかっ〉という気持ちが入っていて、自分自身も励まされる応援歌になっています。

歌手になるまでの道のりは遠く、先が見えないなかで何度もくじけそうになりました。でも、歌が大好きという気持ちと、周りの方の支えもあって諦めようと思ったことはありません。今考えると、皇學館高校で礼儀や挨拶といった生活態度を含め厳しく指導していただいたことが本当にありがたく、自分の糧となっていたことに気付かされます。叱ってくれるということはその人のためを思っての行動ですし、人が成長するうえで欠かせない要素だと思います。大人になると他人から叱られることはまずないので、後輩のみなさんもまだ若い今のうちにたくさん怒られ、いっぱい失敗してください。そして、自分が責任を持てる範囲でやりたいことをして、学校生活を楽しんでください。私も歌の世界を表現でき、聴いてくださる方に笑顔や感動を届けられる歌い手をめざして、これからもがんばります。

イベント情報(6～7月)

6月

9(土) 月例文化講座　431教室
ケータイ文化とつながり確認のことば
◆前田至剛 文学部講師

皇學館大学共催講座　近鉄文化サロン阿倍野
古事記を読む「建御名方命」
◆白山芳太郎 文学部教授

14(木) 第17回現代日本塾　621教室
まちづくりへの学生参加
◆大阪人間科学大学教授　片寄俊秀 氏

16(土) 皇學館大学共催講座　近鉄文化サロン阿倍野
特別公開講座「万葉人の信仰(2)」
◆本澤雅史 文学部教授

23(土) 古文書講座　712教室
古文書を読もう!(中世)◆岡野友彦 文学部教授

皇學館大学共催講座　近鉄文化サロン阿倍野
神道と仏教 ―神社仏閣に見る神仏習合と神仏分離―
「伊勢・外宮と仏教」◆河野訓 文学部教授

30(土) 神道博物館教養講座　佐川記念神道博物館講義室
伊勢の神宮を語るⅠ ―日本文化の源流を考える―
「伊勢の神宮と日本人(仮称)」
◆伴五十嗣郎 皇學館大学名誉教授・特別教授

7月

7(土) 創立百三十周年・再興五十周年記念特別講座　622教室
日本人の精神文化伝統をいかに継承するか
◆鉄道情報システム常勤監査役、本学客員教授、憲法・皇室法研究家　田尾憲男 氏

8(日) 皇學館大學人文學會大会　431教室
記念講演「宮家制度の成立と展開」
◆京都産業大学名誉教授、モラロジー研究所教授、本学特別招聘教授　所功 氏

14(土) 月例文化講座　431教室
英語はどこからきたのか?
―英語の起源をさぐる―◆児玉玲子 文学部教授

皇學館大学共催講座　近鉄文化サロン阿倍野
古事記を読む「ニニギノミコトの誕生」
◆白山芳太郎 文学部教授

19(木) 第18回現代日本塾　621教室
障害のある人と共に生きる(仮題)
◆産経新聞厚生文化事業団　片山宣博 氏

21(土) 皇學館大学共催講座　近鉄文化サロン阿倍野
神道と仏教 ―神社仏閣に見る神仏習合と神仏分離―
「伊勢・内宮と仏教」◆河野訓 文学部教授

みえアカデミックセミナー2012　三重県文化会館レセプションルーム
健康維持とこころの維持 ―体育学、心理学からできること―◆叶俊文 教育学部教授
これからの保育、社会にとって大切なこと
◆檜垣博子 教育学部教授

皇學館大学　ふるさと講座　名張市防災センター
名張と自然災害 ―名張川の恵みと氾濫～その歴史的影響―◆清水潔 皇學館大学学長

28(土) 古文書講座　712教室
古文書を読もう!(中世)◆岡野友彦 文学部教授

皇學館大学共催講座　近鉄文化サロン阿倍野
特別公開講座「伊勢の斎王と斎宮」
◆岡田登 文学部教授

29(日) 創立百三十周年・再興五十周年記念特別講座　ホテルグリーンパーク津
日本人にとって「大切なこと」◆京都産業大学名誉教授、モラロジー研究所教授、本学特別招聘教授　所功 氏

◉各講座の詳細につきましては、**本学ホームページ**にてご確認いただきますようお願い致します。
◉**共催講座(近鉄文化サロン阿倍野)**のみ、**有料**です。お問い合わせは**近鉄文化サロン阿倍野**(☎0120-106-718)へお願い致します。
◉**神道博物館教養講座**は、事前の申込みが必要になります【先着順】。お問い合わせは(☎0596-22-6471)へお願い致します。
◉その他お問い合わせは、**皇學館大学企画部**(☎0596-22-6496)へお願い致します。

編集後記

◆四月二十九、三十日挙行の本学創立百三十周年・再興五十周年記念行事においては、安倍晋三元首相の記念講演会、雅楽師・東儀秀樹氏と本学雅楽部との記念演奏会をはじめ、各行事に多数の方がご来場頂き、大盛況のうちに終了することができました。大学を取り巻く環境は今後ますます厳しくなりますが、教職員と学生が「全学一体」となり、次の百五十周年に向けて皇學館大学を盛り立てていければと考えます。今後とも皇學館大学をよろしくお願い致します!【企画部】

コミ4年の東真央さんが起業

紀北町で食品の移動販売

テキパキと動く東さん。常連客からは「まおちゃん」の愛称で呼ばれている。

本学コミュニケーション学科四年の東真央さんが地元・紀北町で食品の移動販売「まおちゃんのおつかい便」を始め、話題を呼んでいる。

起業したのは今年の二月。祖母の買い物などを手伝ううち、地域の高齢者が外出に困っている現状を目の当たりにして食品の移動販売を思い立った。

仕入れは朝七時。前日に注文しておいたキンピラやひじき煮などの総菜を受け取ると、八時には最初の拠点へ。そのまま町内二十カ所ほどを回って売りさばく。実際に仕事をしてみて気付いたのは、山間部といったスーパーがないところだけでなく、近くに商店が並ぶ地区でも需要があることだ。ヒザや腰を痛めているとわずかな距離でも億劫に感じ、外出を控えるお年寄りは多い。また、一人暮らしの人は客同士のおしゃべりが楽しみで買いに来ることも。客が何を求め、どのように利用しているのか――小さなニーズに応えたいと商品も三百点ほどを揃え、宅配や買い物代行も引き受ける。

常連客も増えつつあるが、「同じメニューだと飽きられてしまうので、新しい総菜を考え中」とのこと。次のステップに向け、早くも意欲的だ。

笑顔も大事、と東さん

安全・きれいなキャンパスめざして

学生の手でマナーアップ

「あちらの駐輪場にお願いします」――オレンジ色のジャンパーを着た学生が自転車やバイクに乗った学生たちに声をかけている。最近、構内で見られるようになったこの光景、四月から始まった「マナーアップ・キャンパス」の一環である。

同活動に取り組んでいるのは有償ボランティアの学生たちだ。メンバーは二～四年生あわせて十七名。ローテーションを組んで誘導や駐輪場の整理整頓にあたる。隊長を務めるのは国史学科四年の的場央樹(ひろき)君。もともと交通整理のアルバイトをした経験があり、「そこで学んだ知識を生かしたかった」とボランティアに申し込んだ動機を語る。苦労する点は、あくまでも"お願いをする立場"ということ。警察と違い強制力はないので、いかに納得してもらい協力を得られるかが重要だ。そのため、声かけの際は〈笑顔を絶やさず元気よく〉がモットー。「安全のために、お願いします」という一言も忘れない。的場さんはこの活動に企画の段階から参加。バイク置き場が倉風ハウス付近に設置されたのも、「スピードが出るバイクはできるだけ構内から離れた場所が望ましい」とする彼の提案だ。

整頓に協力的な学生も増えたと話す的場君(手前)

学生自らが構内の安全、美化に取り組むことでほかの学生の間でもマナー意識が高まり、ごみ拾いや挨拶が今まで以上に積極的に行われるようになったという相乗効果も。的場君たちの忙しい日々はまだ続きそうだ。

史料編纂所だより

史料編纂所では、本年度下記のような行事を計画いたしております。一般の方のご参加を歓迎いたしますので、お誘い合わせの上、多数のご来場をお待ち申し上げます。

古文書を読もう!

中世	講師●岡野友彦 ①6月23日(土)　②7月28日(土) 712教室　13:00～14:30
近世	講師●上野秀治 ①9月29日(土)　②10月20日(土) 211講義室　13:00～14:30
近代	講師●谷口裕信・田浦雅徳 ①11月17日(土)　②12月15日(土) 712教室　13:00～14:30

参加費無料・申込不要(当日お越しください)
初心者でもお気軽にどうぞ。

【公開講座】日本書紀・古事記の世界

8月26日(日)　431教室

10:00～11:00	Ⅰ	「任那(みまな)」をたずねて 講師●遠藤慶太
11:00～12:00	Ⅱ	神功皇后紀(じんぐうこうごう)と好太王碑文(こうたいおうひ) 講師●荊木美行
13:00～14:30	Ⅲ	三重の采女(うねめ)と伊勢の大鹿氏(おおが) 講師●岡田　登

参加費無料　おはがきでお申し込みください。
(昼食は各自ご用意ください)

詳しくは**史料編纂所事務室**までお問い合わせください。
TEL・FAX 0596-22-6462　E-mail shiryo@kogakkan-u.ac.jp

記念事業へのご協力に厚く御礼申し上げます

創立百三十周年・再興五十周年記念事業の推進にあたりましては神社界をはじめ館友会、萼の会など各方面の皆様から多大なご厚志を賜り、おかげをもちまして平成二十四年四月末時点の寄付総額は十一億円に達しました。この場をお借りしてご協力、ご協賛いただいた皆様に謹んで御礼申し上げます。なお、五万円以上のご寄付に関しましては、ご芳名を七号館二階に設置の「寄付者銘板」に記させていただきました。今後とも、本学の教育研究活動にさらなるご理解とご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

寄付者銘板

【訂正とお詫び】 前号(第37号)に掲載の近鉄文化サロン・皇學館大学共催講座特別公開講座の内容に誤りがありました。ここに訂正し、お詫びいたします。

〈講座タイトル〉
(誤) 8/18　日本書記の神話
(正) 8/18　日本書紀の神話

〈申込み・問合せ先〉
(誤) 近鉄文化サロン安倍野
(正) 近鉄文化サロン阿倍野

オープンキャンパス
こころ小路ツアー2012

開催スケジュール!

第1回目	第2回目	第3回目
6/10(日)	7/15(日)	8/19(日)

全日程/11:00～16:00

学校見学会　7/14(土)　13:00～16:00

◆◆◆◆やる気重視のAO入試スタート!◆◆◆◆

	神職後継者選考[文学部 神道学科]	一般選考[全学部]
エントリー期間	8/1(水)～20(月)	
セミナー	―	8/29(水)
面談	8/28(火)	

●スポーツ選考[教育学部]は、8/1(水)～エントリーが始まります!注:スポーツ選考はエントリー前に第一次面談があります。
※詳細は、AOリーフレットをご確認ください。

日本の原点を知る。
皇學館大学
❖文学部……◆神道学科　◆国文学科　◆国史学科　◆コミュニケーション学科
❖教育学部……◆教育学科　❖現代日本社会学部……◆現代日本社会学科
0596-22-6316(入試担当)　●入試情報の詳細はパソコンから…　皇学館　検索